

畑田家住宅一般公開と第16回畑田塾「宇宙で一番低い温度をつくる」に参加して

西宮市立上ヶ原公民館館長 藤岡和代

2013年5月12日、大人4名、幼児2名の総勢6人で西宮から車を走らせ、小1時間もすると目的地近くの臨時駐車場（田んぼ道）に到着した。車から一歩外に出ると、5月の明るい太陽と爽やかな風、そして田畑の土のにおいが、私たちを温かく迎えてくれた。早速、虫探しに夢中の3歳の男子と、1歳になったばかりのよちよち歩きの女の子を見守りながら田んぼ道を歩く娘夫婦は、日頃の慌しさを忘れて、初夏の日曜のひとときを心から楽しんでいるようであった。遮る山もなく人家や田畑が遠くまで続く南大阪の風景は、私たち夫婦が育った但馬の山里とは違って、広く大きく明るく感じられた。

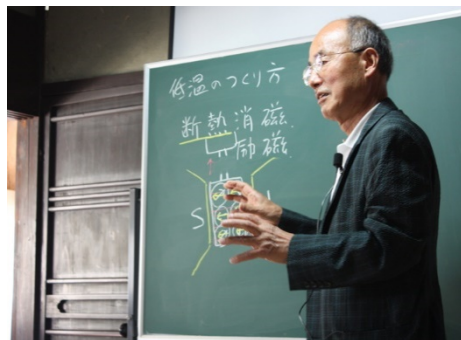


その南大阪の集落の一角にある畑田家住宅は、ホームページの写真を見て想像していたとおりに、歴史の重みを感じる素晴らしいお屋敷だった。長屋門を入れば、どっしりと威厳のある母屋を中心として、蔵や納屋や付属屋が庭を囲むように並び、桐をはじめ銀杏、柿など色々な樹木の育つ裏庭が続く。母屋の土間にある梁架構や竈、そして2階の女中部屋へつながる梯子を見ていると、手ぬぐいを姉さんかぶりした女性たちが忙しそうに働く姿が目に見えようであった。客座敷では畑田先生が、行灯や手製のラジオやオルゴールなど珍しい品物を次々に見せてくださり、集まった子供も大人も目を輝かせて大喜び！！まるで先生が、時を操るマジシャンか、魔法のポケットを持ったドラえもんに変身されたのかしらと思うほどであった。2人の孫たちは、土間の白でシーソー遊びをしたり、オルゴールの椅子に何度も腰かけたり、貴重な文化財を遊園地のように楽しく見学(?)させていただいた。



午後の畑田塾は「宇宙で一番低い温度を作る」と題した難しそうな講座で、理科音痴を自覚する私ではあるが、明治・大正時代の庄屋のお屋敷で現代科学の講義を聴くという雰囲気を楽しむばかりに図々しくも参加させていただくことにする。温度とは何かという話からスタートしたが、講師の児玉先生は、中学生や私のような者も混じっていることを意識されてか、たいへん丁寧にお話ししてくださった。

途中、熱が入って難しい話が続き続いた時には、適宜軌道修正してくださる方が参加者の中にいらして、講師



とフロアーとの和やかなやり取りは、畳の間での講座であればこそのものである。自然界に存在する温度よりもはるかに低い温度が人工的に作れること自体が私には不思議なことであるが、それを作られたという児玉先生のチームの偉業には敬意を表するばかりである。先生ご持参の液体窒素を使った実験では、中高生はじめ参加者の中から感嘆の声も聞かれ、終始、誠意あふれる児玉先生の語り口がとても印象的な3時間であった。

身の回りの物や現象を「なぜ？」という好奇心あふれる目で見つめ、世界の不思議を探究することは人間にとって非常に大切なことである。きらきらと輝く純粋な目と心を持つ若者たちにそのような機会を与えてくださる「畑田塾」が今後長く続き、いつかまた、成長した孫を連れて参加させていただきたいと思いながら畑田住宅を後にした。



超伝導による磁気浮上



本稿中の写真は畑田家住宅活用保存会事務局長畑田耕一が撮影したものである。